

平成29年度 自己評価表〔中間〕 (9月30日現在)

江田島市教育委員会

	中期経営目標	短期経営目標	評価項目	評価指標	実績値				目標値				評価 (自己評価の結果)	改善策
					平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度		
学校教育	教職員の服務規律の厳正確保を図る。	教職員による不祥事を0(ゼロ)にする。	<ul style="list-style-type: none"> 各校が実施した服務研修の好事例を市主催研修において活用し、各校の服務研修に生かせるようにする。 5月を「不祥事根絶強化月間」とし、重点的な取組を行う。 全児童生徒、保護者、教職員に「体罰」「セクシュアル・ハラスメント」のアンケートを毎学期実施する。 	懲戒処分件数	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	校長会、教頭・事務長会において、「服務規律の確保」に関して講話を行う等、取組を行う。	
	児童生徒の学力の向上を図る。	習得した知識・技能を活用する力を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> 「学びの変革」推進協議会を設置し、取組を進める。 「学力向上チェックリスト(改訂版)」のすべての項目において、その質が向上するよう、具体的に指導・助言する。 年間3回の計画訪問を行い、授業改善等について、指導力向上に係る指導・助言する。 ICT活用事業(市町挑戦加配)、理科教育推進事業(市町挑戦加配)、外国語指導事業を実施する。 学力向上に関する先進校を視察する。 	広島県「基礎・基本」定着状況調査(タイプⅡ)の平均通過率	小5 国(+10.6) 算(+4.1) 理(+5.6) 中2 国(+6.2) 数(+3.4) 理(+0.7) 英(▲1.9)	すべての実施教科で県平均を5ポイント以上、上回る。	すべての実施教科で県平均を7ポイント以上、上回る。	すべての実施教科で県平均を9ポイント以上、上回る。	小5 国(+3.0) 算(+4.2) 理(+3.8) 中2 国(▲0.9) 数(+1.7) 理(+5.1) 英(+5.7)	<ul style="list-style-type: none"> 第2回「学びの変革」推進協議会を10月に開催する。 引き続き、「学力向上チェックリスト」を活用する。 				
	児童生徒の豊かな心を育成する。	不登校児童生徒数を減少させる。	<ul style="list-style-type: none"> 9月を児童生徒主体の「いじめ撲滅月間」とし、重点的な取組を行う。 全児童生徒に「いじめ」のアンケートを毎学期実施する。 全校で児童生徒を対象とした情報モラルに関するネットトラブル講演会を実施する。 道徳教育推進教師等を対象とした市主催研修(心の教育担当者研修会)を実施する。 教育相談体制の充実を図るため、スクールカウンセラー等を招聘し、市主催研修を実施する。 	不登校児童生徒の割合	小:0.00%(0人) 中:1.60%(7人)	小:0.00%(0人) 中:1.24%(5人)	小:0.00%(0人) 中:1.01%(4人)	小:0.00%(0人) 中:0.73%(3人)	小:0.12%(1人) 中:0.25%(1人)	<ul style="list-style-type: none"> 「いじめ撲滅月間」の各学校の取組を自校に生かす。 教育相談体制の充実を図る。 人権教育、自己・他者理解、支えあう集団づくりの推進について指導助言を行う。 				
	江田島の「食」について知り、故郷への愛着や誇りを育てる。	学校給食の地場産品の使用割合を増加させる。	<ul style="list-style-type: none"> 食材を発注する際、地場(県内)産品を指定する。 市内の生産者に計画的に食材を発注する。 「おいしい江田島の日給食」を年2回実施し、江田島産品を積極的に使用する。 市長部局(健康推進課)と連携し、「えたじまん食育レシピ」2万食プロジェクトを実施する。 学校給食だよりで周知する。 	地場産品の使用割合	34%(県平均30%)	36%	38%	40%	43.8%	江田島産オリーブを使用した献立を考案し、食育教材として活用する。				
生涯学習	歴史資料館の活性化を図る。	学びの館、大柿地区歴史資料館(灘尾記念文庫)の来場者数の増加を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「六角紫水展(仮称)」を行う。(大柿地区歴史資料館) 古写真収集事業の窓口とし、写真の展示を行う。 市民ギャラリーや文化財等の展示企画を充実させる。 ものづくり教室の充実を図る。(学びの館) 広報の活用や学校への呼びかけ等により、PR強化を図る。 	来場者数 (学びの館) (大柿地区歴史資料館(灘尾記念文庫))	8,961人 770人	9,000人 800人	9,100人 850人	9,200人 900人	4,633人(51.4%) 602人(75.2%)	<ul style="list-style-type: none"> 学びの館及び大柿地区歴史資料館において、ふるさと歴史講座を開催する。 事業の周知や施設のPRをする。 				
	公共スポーツ施設の利用促進を図る。	スポーツセンターのトレーニング室の利用者数増加を図る。	<ul style="list-style-type: none"> トレッドミル1台を追加し、5台とする。 運動機器の使用マニュアル及び運動機器を使用したトレーニングメニューを作成する。 トレーニング室を利用した健康教室を行う。 広報等の活用により、PR強化を図る。 	利用者数	7,872人	8,000人	8,300人	8,600人	4,669人(58.3%)	<ul style="list-style-type: none"> 市広報及びフェイスブック等により、施設のPRを引き続き行う。 トレーニング室を利用した健康教室を開催する。 				
	図書館の充実を図る。	図書館年間貸出冊数の増加を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 2館2室合同の「スタンプラリー」を夏季休業中に実施する。 読書記録をためるための「読書貯金通帳」(大人・子ども用)を配布する。 小学校高学年対象の「子ども司書」養成講座の参加者を増やし実施する。 子ども読書活動推進計画に基づき、家庭教育支援として読書活動をテーマとした参加型プログラム及び読書ボランティアによる「おはなし会」を実施する。 利用案内チラシを作成するなど、PRの強化を図る。 	年間貸出冊数	103,767冊	114,000冊	115,000冊	116,000冊	55,827冊(49.0%)	<ul style="list-style-type: none"> 図書館利用のチラシを配布又は掲示し、PRを強化する。 「読書貯金通帳」のPRを強化する。 				

